

## 金沢への外国人観光客に白山手取川ジオパークへ足を延ばしてもらうための 具体的な計画立案

指導教員 北陸学院大学 教授 富岡和久  
助教 木村ゆかり  
英語教育研究支援センター ブリジット・ホージー  
英語教育研究支援センター イアン・ローレンス

参加学生 4年 西優莉 水嶋千景 星野絢子 政田ふうか 平八起  
浅井純奈 大石喜己 大澤翔生 萬澤楓 川口陸斗  
葛谷康介  
3年 角井千那 市谷美桜  
2年 佐藤公一朗 宮村一咲花 米澤葵 今川華世 若泉統子  
加藤将晃  
1年 村田さつき 矢谷佳須美

白山ジオサークルの活動にご指導・ご協力くださいました、白山手取川ジオパーク推進協議会  
スーザン・メイ様、村井壮志様、前琴美様に心より感謝いたします。



北陸学院大学  
白山ジオ Hakusan Geo  
インスタグラム

# 金沢への外国人観光客に白山手取川ジオパークへ足を伸ばしてもらうための具体的な計画立案

北陸学院大学 白山ジオサークル



## □活動概要

北陸学院大学の「白山ジオ」は2023年4月に設立された学生サークルで、「英語」「観光」「地域活性化」「自然」「子ども」「異文化」に関心がある1～4年生21名で構成されている。2023年度は地域課題研究ゼミナール支援事業「地域課題発掘枠」に採択され、金沢への外国人観光客に白山手取川ジオパークへ足を伸ばしてもらうための調査に取り組んだ。2024年度は、前年度の調査で明らかになったことを踏まえて具体的な誘致計画の立案を行った。



@HAKUSAN\_GEO\_MISSION

## □今年度の活動

- ①SNS（インスタグラム）によるジオパークの魅力発信・旅行サイトでの英語による投稿
- ②認知度調査
- ③Enjoy!白山ジオ 世界ジオパーク認定1周年記念イベント



## ④石川県指定伝統工芸「檜（ひのき）細工」のブランディング

- ⑤自然体験モニターツアー企画サポート
- ⑥ジオパーク特産品の販売
- ⑦ジオパークでの各種イベントでのボランティア
- ⑧環白山広域観光推進協議会が運営する観光サイト「ぐるっと白山」で地元ライター
- ⑨白山市教育委員会主催「感性のびのびジオ・サタデー」のサポート
- ⑩その他（ラジオ番組出演、「白山手取川ジオパーク公認観光ガイド養成講座」参加）



## □今後の目標及び活動

- ・国内外のジオパークで活動している大学との交流
- ☆来年度に継続
- ・認知度調査 ・SNS活動 ・ジオパーク特産品の販売

## 1. 活動の要約

北陸学院大学の「白山ジオ」は2023年4月に設立された学生サークルで、「英語」「観光」「地域活性化」「自然」「こども」「異文化」に関心がある、子ども教育学科、幼児教育学科、初等中等教育学科、栄養学科、社会学科の1～4年生21名で構成されている。2023年度は地域課題研究ゼミナール支援事業「地域課題発掘枠」に採択され、金沢への外国人観光客に白山手取川ジオパークへ足を延ばしてもらうための調査に取り組んだ。2024年度は、前年度の調査で明らかになったことを踏まえて具体的な誘致計画の立案を行った。

連携する地域団体は、白山手取川ジオパーク推進協議会である。初めに、同推進協議会から現状のヒアリングを行い、年間を通して活動計画や進捗状況などを定期的に報告し、必要に応じて助言をいただきながら活動に取り組んだ。また、2023年度の活動で協力団体だった、白山市観光連盟、いしかわ自然学校、ANAホリデイ・イン金沢スカイにも継続してご支援をいただいた。

主な活動としては、2023年度に引き続き(1) SNSでのジオパークの魅力発信と英文旅行サイトでの投稿、周辺エリアからのアクセスの提案、(2) 認知度調査、(3) 世界ジオパーク認定記念イベントの実施、(4) 檜細工のブランディング、(5) 自然体験モニターツアーの企画サポートを行った。さらに、(6) 学内でのジオパーク特産品の販売、(7) ジオパーク内の地域団体が主催する各種イベントでのボランティア、(8) 観光サイト「ぐるっと白山」で地元ライターとして記事の取材および執筆、(9) 「感性のびのびジオ・サタデー」のサポート、(10) その他のPR活動に取り組んだ。

## 2. 活動の目的

白山手取川ジオパークは2023年5月24日、国内で10番目にユネスコ世界ジオパークに認定された。2024年3月の北陸新幹線延伸により、北陸への外国人観光客も増加している。しかながら、自然豊かなジオパークでは、公共交通機関の利便性が低く、観光客の誘致においてわかりやすい移動方法の周知が課題となっている。そこでJR金沢駅から10分程の松任駅への電車での移動、小松駅や小松空港からレンタカー・タクシーを利用した鳥越への移動、福井県勝山市からカーシェアで30分の白峰への移動など、多様な交通手段を用いたアクセス方法の紹介を行なう。

また、地域の要望に従い、同ジオパークのPR活動への貢献を目指すとともに、地域経済の活性化促進のため、学生メンバーが地域を訪れ、地域の方から白山手取川ユネスコ世界ジオパークの魅力を教えていただき、学生が自分たちの言葉でそれぞれの切り口からジオストーリーを語ることで、対外的に多様な情報発信を行なうことを目指す。

教育効果として、ジオパークという保護・教育・持続可能な開発が一体となった地理的領域で、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることで、持続可能な未来について思い描き行動することができるようになる。

## 3. 活動の内容

主な活動内容は下表のとおりである。

	活動内容 (実施日・学生の参加人数)
(1)	SNS発信のためのジオパーク取材：下野園地、レストラン手取川 (4/14・5名)、おかえり祭り (美川地域) (5/18・5名)、西山高山植物園 (6/15・2名)、ろあん・越原・クウイ (6/21・4名) アクセス3ルート (小松、福井、岐阜) 調査 (8/7-8・12名)
(2)	認知度調査：しいのき迎賓館 (6/9・11名+高校生7名)、小松空港台湾人観光客対象 (11/17・5名)、Geo English 認知度調査英会話の練習 (4/26・6名、6/21・4名)
(3)	「Enjoy! 白山ジオ 世界ジオパーク認定1周年記念イベント」：会場しいのき迎賓館下見 (5/29・4名)、

	イベント当日 (6/9・11名)、羽咋市役所訪問 (7/5・4名)
(4)	檜細工ブランディング:材料調達 (7/31・3名)、横町うらら館で講習 (7/16・4名)、スーザン氏講習 (7/17・7名)、ANA ホリデイ・イン金沢スカイ打ち合わせ (1/17・2名)、吉田酒造店配布 (1/18-19・6名)
(5)	自然体験モニターツアー: 打ち合わせ (1/17・2名)、イベント当日 (2/17、26・各3名予定)
(6)	ジオパーク特産品の販売: ジオスイーツ販売 (6/13・5名)、大学祭向け調査 (7/13・3名)、大学祭での販売 (10/25-26・16名)
(7)	<地域団体主催のジオパークでの各種イベント>吉野谷まつり実行委員会主催「吉野谷 月と宴まつり」: 打ち合わせ (8/22・1名)、テスト (9/2・2名)、会場清掃 (9/16・1名)、当日ボランティア&ジオツアー & ジオ謎解き (9/21・11名)、白山吉野地域復興協議会主催「工芸の里フェスタ」ボランティア (11/3・6名)、白山吉野谷観光協会主催「五感で楽しむ 吉野工芸の里 JAZZナイト」ボランティア (11/23・8名)
(8)	環白山広域観光推進協議会運営の観光サイト「ぐるっと白山」地元ライター取材: 白山ワイナリー (10/13・2名)、浅野太鼓 (11/15・1名)、たまごのゆめ・瀬波カフェ (11/16・4名) 牛首袖 (11/28・1名)
(9)	白山市教育委員会主催「感性のびのびジオ・サタデー」サポート: 白峰 (5/25・1名)、鶴来 (6/22・2名)、美川 (10/19・4名)、鳥越 (11/19・2名)、吉野谷 (1/25・2名予定)、白峰 (2/8・2名予定)
(10)	その他: 越原甘清堂ガラス窓「夏のジオパーク」イラスト描き (6/2・3名)、ラジオ出演 (7/26・3名)

(1) SNS (インスタグラム) でのジオパークの魅力発信と旅行サイトでの英語による投稿

松任や美川などの平野部の魅力発掘および発信、周辺エリアからのアクセスの提案として、岐阜ルート (白山白川郷ホワイトロード)、小松ルート (小松天満宮、小松駅&小松空港、サイエンスヒルズ小松)、勝山ルート (越前大仏、平泉寺白山神社、勝山駅&えち鉄カフェ、Hutte café and restaurant、カーシェア) を設定した。

(2) 認知度調査

2024年度は2回の認知度調査を実施した。1回目の6月9日は、しいのき迎賓館で20名の外国人の回答を、2回目の11月17日は小松空港の国際線出発ロビーで台湾人観光客16名の回答を得た。また、4月から、認知度調査に必要な英会話を練習するためのGeo Englishという勉強会を開催した。ネイティブ教員の支援のもと、教育学部の学生がレッスン内容を考案した。白山手取川ユネスコ世界ジオパークのみどころを英語で説明できるようになった。



第1回認知度調査



第2回認知度調査



Geo Englishの様子



Geo English 教材

(3) Enjoy! 白山ジオ 世界ジオパーク認定1周年記念イベント

6月9日に白山手取川ユネスコ世界ジオパークの特産品9種類と「きりまんじゃろコーヒー」を販売した。

イベント前後に新聞記事で取り上げられ (5/25 北陸中日:「魅力発信 広い視点で」、6/11 北國:「白山ジオの魅力伝え 世界認定1周年を記念」、6/11 中日:「世界認定1年 認知度は」)、各種ウェブサイトでも情報発信ができた (いしかわスタイル (10万人登録)、Odekake navi、Kanazawa (+北陸) English Speakers (5,800人登録)、白山市LINE (23,347人登録)。また、「一里野高原ホ

「テルろあん」のジビエ丼のキッチンカー出店など、地域の事業者にもご協力いただいた。

(4) 石川県指定伝統工芸「檜（ひのき）細工」のブランディング

学生が檜細工の作り方や歴史について学び、2025年1月に、ANA ホリデイ・イン金沢スカイのご協力を得て、ラウンジでのコースター展示や檜細工の歴史について説明するミニ絵本の配布を予定している。また、白山の水と関わりが深い地酒メーカーの吉田酒造店では、酒類購入者にコースターとミニ絵本を配布するPRイベントを実施した。絵本は日本語・英語で書かれており、檜細工が盛んだった旧尾口村深瀬出身である本学職員の近岡尚美氏、檜細工作家の香月久代氏、スーザン・メイ氏の監修いただいた。原稿の作成および挿絵はすべて学生による。



檜細工の練習



スーザン氏による檜細工の講習



檜細工のコースターと絵本



2025/1/10 北國新聞

(5) 自然体験モニターツアー企画サポート

2025年2月に冬のジオパークを満喫する「カンジキ」ハイキングモニターツアーが開催されることになった（主催：白山市観光連盟、協力：白山手取川ジオパーク推進協議会、ANA ホリデイ・イン金沢スカイ、北陸学院大学）。これまでの自然体験での学びをもとに、学生3名がモニターツアーのサポートスタッフとして参加する予定。

(6) ジオパーク特産品の販売

6月には昼休みに学内で、10月には大学祭でジオパーク特産品を販売した。白山ジオサークルのInstagramも紹介し、フォローしてくれた方には「堅豆腐ショコラ」をプレゼントした。

(7) ジオパークでの各種イベントでのボランティア

9月から11月にかけて、吉野工芸の里でライトアップなどの各種イベントが行われた（主催：吉野谷まつり実行委員会、白山吉野地域復興協議会、白山吉野谷観光協会）。地域の要望に応えるかたちで学生がボランティアスタッフを担当した。ジオガイドの研修を受けている学生がミニジオツアーを実施し、ジオパークについて学ぶことができる「謎解き」を制作および提供した。



ジオガイドツアー



ジオ謎解き



ジオ謎解きに参加した子供たち



イベントボランティア

(8) 環白山広域観光推進協議会が運営する観光サイト「ぐるっと白山」で地元ライター

これまでのInstagramでの取材および投稿の経験を活かして、白山周辺の見どころを紹介する地元ライターとして、白山ワイナリー（福井県大野市）、カフェ、伝統工芸（石川県白山市）の記事の取材および執筆を担当した。

(9) 白山市教育委員会主催「感性のびのびジオ・サタデー」のサポート

「感性のびのびジオ・サタデー」に小学生の参加者の見守り役として、子ども教育学科と初等中等教育学科の学生4名が参加した。子ども向けのジオパークの楽しみ方について学んだ。

(10) その他

ジオパーク特産品の販売でご協力くださった越原甘清堂（鶴来町）のショップ窓にジオパーク関連のイラストを描いた（6/3 北國：「学生が魅力発信 和菓子店に初夏の風物」）。また、エフエム石川のラジオ番組「Student Jam R」に学生3名が出演し、サークル活動について紹介した。さらに、石川県の大学ガイドブック「イシカレ 2024」、日本ジオパークネットワークの機関誌「GEOPARK magazine」Vol. 12で白山ジオが紹介されることになった。学生1名が2024年6月～11月全13回の「白山手取川ジオパーク公認観光ガイド養成講座」に参加した。



2025/6/3 北國新聞



ラジオ番組出演



イシカレ 2024

4. 活動の成果

今年度は、部員 21 名全員がそれぞれの得意もしくは興味のある分野で活動に携わることができたおかげで、サークルとしての地域貢献力が少しずつ高まったように感じられる。まず、白山手取川ユネスコ世界ジオパークへの海外誘客という課題について、アクセスの紹介など具体的な提案を含んだ英語での情報発信と、これまで調査ができていなかった台湾人観光客を対象とした認知度調査ができた。さらに、地域団体の白山手取川ジオパーク推進協議会と連携し、地域の団体や事業者の要望に応えながら、イベントでのボランティアを通して地域住民の方との交流を深め、微力ながらも金沢市内のホテル ANA ホリデイ・イン金沢スカイと白山市をつなぐ役割を果たせた。こうした実践の場を与えていただけたのは、地域の方の温かいご理解とご協力のおかげであり、部員および顧問一同、心から感謝している。

5. 今後の活動計画

SNS による英語での情報発信、認知度調査、檜細工のブランディングなど、地域の要望をヒアリングしながら来年度も継続したい。また、PR 活動における成功事例など学ぶために、県外のジオパークで活動している大学や海外のジオパークと連携している大学等との交流も検討したい。

6. 活動に対する地域からの評価

白山手取川ジオパーク推進協議会専門員のスーザン・メイ氏からは、「今年は白山ジオの活動が広がり、さらに進化したように見られます。最初には様々な会議を通して、ジオパークのニーズや課題を把握した上で、自分たちのやりたい活動と上手くマッチングして進めたため、目標を意識した活動に繋がり、もっと総合的なジオパーク活動になったと思います。また、様々な機関と協力して、自分たちの強みとそれぞれの機関の強みを重ねることで、サークルだけで、機関だけでできる活動を越えた活動が多くでき、地域に大きく貢献したと思います。学生にとっては、今年はコミュニティ、英語、自然、子供教育、観光等、多くの分野を楽しく学ぶ年だったでしょう。」との評価をいただいた。